

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	高岡市きずな子ども発達支援センター（児童発達支援事業）			
○保護者評価実施期間	令和7年11月4日 ～ 令和7年11月30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	200	(回答者数)	47
○従業者評価実施期間	令和7年11月27日 ～ 令和7年12月3日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・多職種の職員が支援にあたっており、互いに連携することで支援内容の充実を図ることができる。	・主治医、看護師、訓練士、相談支援専門員と連携を図って支援にあたることができる。 ・子どもの支援を考える際、様々な専門職から意見を聞き、職員の学びや知識を深めることができる。	・各職種との連携がスムーズになるよう、定期的な情報交換の場を設けている。 ・年に数回、センター全体の研修の場を設定し、支援の充実を図っている。
2	・家族支援の充実を図っている。	・就学講演会やペアレント・トレーニングを実施している。 ・全保護者に定期的に個別相談日を設け、子育ての悩みに寄り添い、子どもや保護者のニーズや課題を確認し共有している。	・講演や研修の案内については、口頭や紙媒体の情報提供だけでなく、ホームページを活用する。 ・保護者支援に必要な知識を身に付けるため、センター内外の研修会に参加する。
3	・保護者アンケートを行い、保護者のニーズに添えていけるよう体制を見直し取り組んでいる。	・保護者が日程調整を図りやすいように、日程のお知らせを前月10日から前月1日に変更した。 ・指導日の頻度を保てるよう、園行事や体調不良等で欠席した場合、希望者には代替日を設けている。	・代替日の改定は、都度見直ししながら柔軟に進めていく。 ・定期的に保護者のニーズ調査を行いながら、体制の見直しを図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・活動や支援の意図を保護者と十分に共有できていない。	・療育の時間の中で活動のねらいを保護者に伝え、年に2～3回の個別相談の中で成長点や今後の課題を確認し、保護者と共通理解を図ることができるよう努めているが、保護者と十分に共有されていないことがある。	・職員間で、活動のねらいや個別配慮などについて保護者支援の場を設定し、職員一人一人のスキルアップを図っていく。 ・センター内外の研修を受講し、職員の専門性を高めていく。
2	・施設の老朽化	・子どもたちが心地よく過ごせる空間を作るため、毎日清掃し環境を整えているが、施設の老朽化に伴い修繕が必要な箇所が見られる。	・必要に応じて補修や改修を行い、環境を整えていく。 ・親子が心地よく安心して過ごせる環境づくりに努めている。
3			